

2市2町任意合併協の解散決定にあたって

住民にとって、大義もメリットもない合併話 解散は当然

——地に足付けたまちづくり、市民の暮らし守る市政運営こそ市民の願い——

07年9月4日

合併問題を考える宇治の会

1. 宇治など2市2町の任意合併協議会は、8月27日開催の第6回協議会で任意協の解散を全員一致で決定しました。この合併問題は「たまたま2市2町の首長が合意したので出発した」（06年8月24日宇治市から当会への説明のコメント）もので、「住民が経済的文化的に密接な共同生活を営み、共同体的意識を持っている社会的基盤が存在」（最高裁判例が示す自治体の要件）するものでもなく、出発時から住民不在で、大義もメリットもない合併話でしたから、解散は当然です。

2. 解散の理由は、「首長間の信頼関係が崩れ去った。これ以上協議しても合併への合意は確約はされない」というものです。

報道によると、今秋予定の住民意向調査（アンケート）にあたって城陽市の自治会等から「大久保自衛隊の城陽の山砂利跡地への移転問題について、合併後に考えるのではなく、今の時期に住民への情報提供とアンケートを実施してほしい」との要望が出され（8月23日）、城陽市長が住民要望に応え、独自アンケートも検討する意向を示しました。これが2市2町の首長合意（自衛隊の移転先は「合併後の課題」）に反するというものです。

しかし、市民に大事なことを知らせないまま進めようとした首長合意こそ問題です。また、合併したら自衛隊が移転するかのような話が前提になっていますが、合併と自衛隊は関係ない問題です。合併推進派がかつて抱いた幻想が、住民から説明責任を求められたら、一気に矛盾が広がったと言えるでしょう。

3. 任意協が作成した新都市建設基本構想案には、①人口30万の中核市になる見込みがないのに「中核市をめざす」、②算定替がなくなれば交付税収入が大幅に減少するのに、算定替がある合併直後の財政の試算しかあきらかにしていない、③住民の暮らしの問題よりも、第二名神高速道路促進や新市の中核機能の移転など大型公共事業偏重の幻想が羅列されています。一方、既に合併した自治体が困難に直面しています。現実と基本構想案の矛盾も解散の背景にあったものと推測されます。

4. 住民アンケート実施前の解散を残念がる意見が一部報じられていますが、①任意協の立ち上げ自体が住民不在、②首長の本音（自衛隊の移転先）を住民に知らせず、また幻想を振りまいてアンケートをとることの問題等を考えると、解散が早すぎることはあります。

5. 宇治市は、「合併しないと解決できない問題」は抱えていません（昨年、宇治市の当会への説明）。宇治市には、すてきな宇治をつくる力があります。

解散は当然ですが、合併幻想に目を奪われ、人材と時間の消耗は問題です。必要性の無い合併話に人材と時間を使うより、住民の暮らしを守る取り組みの強化、すてきなまちづくりに、住民と行政がさらに力を合わせて、地道な努力を積み重ねましょう。

※ 「宇治などの合併問題に关心ある人は下記のホームページを」ご覧下さい

合併問題を考える宇治の会 <http://www.eonet.ne.jp/~ujiken/>

宮本宇治市議のホームページ <http://hb3.seikyou.ne.jp/home/miyamoto-s/gappei/gappei001.htm>